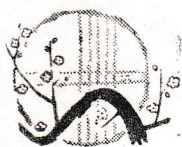


愛媛電友会々報

第4号
発行人 高木靖登
発行所 松山市一番町
4丁目3
愛媛電気通信部
庶務課

目次

年頭のあいさつ	会長 泉	節太郎	一
五周年記念行事について	編集部	二	二
恩給審議会その後のうごき	三浦 恒礼子	三	三
釣りごころ	久保 実太郎	四	四
小唄と私	山内 旬一	五	五
囲碁と私	富板 草風	六	六
俄か百姓の記	山崎 義巳	七	七
故菅川氏を悼む	丹生谷 保	八	八
森長重郎さんの 死を悼む	八		
編集後記	八		



年頭のあいさつ

電友会会長 泉 節太郎
電友会の皆さん

明けましてお目出度うございます。年のあらたまりとともに、心身ともに改たまったという感じをもたれる方も多いのではないかと思います。どうか今年もお元気で、お幸せでありますように、お祈り申し上げます。

さて、今年は電友会発足五年目の年であります。先般の幹事会において、来年（幹事会は昨年未行なわれました）は、何か創立五周年に相応しい記念行事をやったかどうか、という意見が出ました。いろいろ討議せられました。結局、記念行事をやるにしても、会員各位の御協力が必要だ、そこでやるかやらぬか、やるとしたら何んなことをやるか、幹事を通じて、また会誌を通じてその意見を聴こうではないか、その意見を持ち寄って、それを土台として更に検討しようじゃないか、ということになりました。どうか皆さん、この趣旨を御理解の上、積極的に御意見を聞かせて下さい。お

願ひ申し上げます。

それから、これも先般の幹事会で問題になったことですが、電友会は設立以来、公社の御支援によってここまで成長して来ましたが、生誕五年と言えば短かい年月ではない。今後われわれは、公社と密接な関係を保ちつつも、公社にあまりに寄りかかることは、できるだけ少なくし、独自の力で、設立の趣旨に副って更に大きな活躍をする方向へと努力すべきではないか、という意見が出ました。まことにもっともな意見だと思います。もちろんそれがためには、検討解決を要する問題も多いことと存じますがこれはわれわれの努力如何によることと思われまます。会員の皆さんも、その方向で考えの上よい意見があれば、幹事まで、どしどしお寄せ下さるようお願い致します。

話は変わりますが、かつて四国電気通信局長であった小田庄市さんが、局長としての新任のあいさつの中で、「わたしは当年とって四十三才であります」と言われたことがあります。わた

しには少なくとも、そう聞えたのでした。ところで、わたしはかねて新聞その他で、小田さんは五十三才であると承知していましたが、この言葉を聞いた瞬間、げげんに思ったのです。が、直ぐ次の瞬間、小田さんの

「何うか皆さんも、この年の初めに当って、「また一つ若返った」という気持ちで、この一年を元気で御活躍下さるよう願っています。年頭のごあいさつと致します。」

(お詫び)

新年号として発行する予定で原稿をお願いしたのですが、私が風邪を病み、年末から年始にかけて寝たり起きたりで、編集の方も手がけられませんでした。まことに申し訳ないことでございます。会長さん、会員の皆様へ伏してお詫び申し上げます。(平伏) 山崎生

五周年記念行事について

編集部

会長がの電友会創立五周年に於けることになりました。就きましてはこの五周年を記念して、何か有意義な行事をということが幹事会の議題となったのであります。その席で記念行事のこともあり、この行事を意義あらしめるためにも、会員の皆々

様におはかりした上で真にこの行事にふさわしいものを提案して頂いたら、ということになったのでございます。

記念行事を行なうとしてまず次のようなことが頭に浮ぶのです。

一、時期は電友会の総会が例年十月下旬頃になるのでその頃が適当であろう。

二、記念行事としては幹事会の席での思いつきの二、三をあげて見ますと

イ「余生を如何に生かして暮すか」について講演を聞く(講師の選択は難かしいかも知れない)

ロ 誰にでも出来る簡易な健康法の披露並に講習

ハ 会員の余技展覧会(絵画、彫刻、書その他)

右は皆さんのご提案の何かのヒントになればと記入したものです。一つ本当に有意義な五周年記念行事にふさわしいものを左記のようにお知らせ願います。

記

一、時期

二、場所
三、行事(なるべく詳細)
四、宛先

松山市二番町

電気通信共済会四国支部

丹生谷 保あて

○恩給審議会

その後のうごき

昨年設置された恩給審議会は以来十数回に亘り審議を重ねられ、十月十七、八両日には恩給年金関係の説明会を開催、関係の四団体、これに出席して説明を行ないました。そして審議会は次のとおり、恩給年金生活者に理解ある中間答申を政府に提出しました。(佐賀)

恩給増額について(中間答申)

当審議会は、恩給制度の根本的問題について審議するため昭和四十三年三月までの期限をもつて設置され、その発足以来十数回の会合を開きその間恩給受給者側からの意見をも聴取するとともに、恩給に関する諸問題について審議したところ、さしあたり緊急に解決をせまられて

いるものは、恩給年額に関する

ものと判断した。

ところで、恩給は公務員が相
当年限忠実に勤務して退職した
場合、あるいは公務傷病により
退職または死亡した場合に、本
人またはその遺族に対し、その後
における適当な生活の維持を図
ることを目的としているもので
あり、政府が過去数回にわたり
恩給年額の増額を図ってきたの
もこの趣旨によるものと考える。

一方、本年の恩給法の改正に
より、恩給の年額については、
国民の生活水準、国家公務員の
給与、物価その他の諸事情に著
しい変動が生じたときは、その
変動後の諸事情を総合勘案して
すみやかに改定する旨の規定が
設けられた。しかしこの規定の
具体的運用をどのようにするか
については、きわめて重要な問
題を含んでいると思われるので

当審議会は、今後なお相当の期
間慎重に検討しなければならな
いものと考ええる。

しかしながら、現在の恩給年
額は、昭和三十四年十月当時の
公務員給与の二〇%増を仮定俸
給として計算されたものである

が、これは公務員給与と恩給の
増額時期が全く一致していた昭
和二十六年を基準点とし、その
後の消費水準の伸びを考慮して
定めたものである。かりに、こ
の方法により、昭和四十年まで
の消費水準の伸びをみると前述
の増額分を見込んでも、なお相
当の開きがあることが認められ
る。したがって、現在の恩給年
額を当審議会の設置期限まで据
置くことは、前述の恩給の本旨
からみて適当であるとはいえな
い。そこで、当審議会は、当面
の暫定措置として、政府が、将
来の調整規定の運用を妨げない
限度において、適当と考える恩
給の増額措置を行なうことが望
ましいと考える。

釣りどころ

三浦 恒礼子

毎年十二月になるときまぎま
な日記が売り出されるけれども、
かつて日記というものを買うて
つけたことがない。これという
はつきりしたわけがあつてのこ
とではないが、どうせつけてみ
ても三日と続かないことはわか

りきっていることだし、つけ忘
れてなん日も前にさかのぼって、
あれこれ思い出しながらつける
などということになれば、日記
の意味がないばかりでなく、め
んどろこのうえもないというも
のであろう。それに古い日記の
あちこちを読みかえしてみても、
徒らに累々とたまった自分の体
の垢をよじり出しているみたい
で、こんな気持ちの悪いことは
ないだろうと思う。きのうのこ
とはきのうのうちにすっかり忘
れて、きょうをどう意義ふかく
生きるかということを考える方
が、さっぱりと男らしくていい
ような気がする。

それはともかく、もし仮りに
日記をつけているとしたら、も
ちろん家事のことも、つとめの
ことも、税金のことから失費の
ことも、ゴルフの成績やらおそら
くは釣りにかかわることまで、
そのおりに書きとめている
にちがいない。
きょうはその釣りのことを書
けということであるが、どうし
て釣りのことを書かなければな
らないのかよくわからない。釣

り狂とでもみられているのかも
知れないがとんでもないことで
ある。

さきごろ、NHKのテレビ放
送「釣り談義」で岡本孤楽斎と
対談をしたことがある。そのと
きどんな話をしたかよくおぼえ
ていないが、なんでも釣ってき
た鮓の料理法というようなこと
で話を結んだ記憶がある。そう
いうことがあつてから、たいへ
んな釣り狂とでも思われたらし
くて、しばらくは会う人ごとに
釣りのことをきかれたものであ
つた。

釣り狂はともかく、釣りは決
して嫌いだとは自分でも思っ
ていない。とりわけ川釣りは好き
である。菜の花の彩った三月の
磯に、あるときはきつね色に枯
れわたった芦原を霞がうち過ぎ
る十二月の堤にひとり座りこん
で一日ゆっくり過ごしてくる。
釣れるか釣れないか、そんなこ
とにはすこしもこだわらないの
である。春風に頬をなぶられな
がらひばりの囀りをきき、なめ
らかな水の流れに對する。ある
いは美しくかがやいた雪峰を遠

望しながら、りんりんとした寒さの中に身を沈める。家のことも、ぜに金のことも一切を忘れ去った釣りに凝る。そういう釣りを「釣り狂」だというのであれば、これはよろこんでうけるべき言葉である。

ところで松山の近海には釣りの穴場というものが多くある。で、瀬戸うちの釣り人口はすごい数にのぼるであろう。ここらみに鰯の時季などには、そこの港口、棧橋、突堤などは、早朝といわず、夕方、深夜をとわず鰯竿が隙間なくならぶ盛況である。それにくらべて川釣りは、

鮎の時季をのぞいてはほとんどかえりみられないといっている。たまたま鮎釣りを前に立ち寄った人が、その魚はなんという魚か、食べられるのか、鶏の餌にするのかなどと話しかけてきておどろかされることもある。すこし大げさな云い方をすれば、この辺の人は鮎の食べ方を知らないし、食べるものではないと決めてしまっているようである。この春、東京から来訪をうけたさる会社の社長さんを案内し

て重信川に鮎釣りをたのしんだことがあったが、東京辺では早朝から四、五時間も乗りものに揺られて出掛け、一日の釣り果は十尾そこそこが大漁だという。それでも日曜日の鮎釣りの人は妻いもので、それだけに鮎は珍重され、珍味として賞されるところである。重信川で釣った鮎をいくたびかこの社長に贈ったが、そのたびに最大の形容でつづった礼状が届くところをみると、この人はほんとうに鮎の味を知っている人だと思う。

鮎の食べ方というか、料理の仕方はいくとおりもあるであろうが、もっとも簡単な素朴なのは、わたをとり去り、白焼きしたものや一日位日にあてて乾かし、食べる直前にいまいちど火に焙って二杯酢あるいは酢味噌で食べる。この方法は川魚の香りと味をそのままに満喫するといふ、むしろ食通の人によるこ

ばれる。また白焼きして乾かしたものを鍋に入れ、たっぷりと番茶を注ぎ、弱火で茶がほとんど無く

なるまで煮る。これを三回位くしかえしたのち、砂糖、しょうゆ、酒か味淋またはぶどう酒少々のはかきざみしようが、あるいは粉さんしよを少量入れて味をつけて煮詰める。もしあめ煮きにするつもりならば砂糖の量を増せば、美しいあめ色の光沢をもった美味しいものができる。頭も骨もやわらかく、川魚特有の香も消えるので、川魚を食べた経験のない人や川魚の嫌いだという人にも大いによろこばれる。

さらにまた白焼きして乾かしたものをから揚げしたうえ、にんにく少量か、玉ねぎをきざみ込んだ三杯酢に半日位浸しておくと支那料理風の酒のさかなにもなる。そのほかにはフライとか天ぷらなどいくとおりもの食べ方もあるであろうが、ともかく自分で釣ってきたものを自分で料理、最初から最後までこのことをこめた自分の手にかけることこそ釣りのことをつらぬくことになるというものである。

小唄と私

久保 実太郎

電電公社を卒業して、電友会の一年生で先輩諸公の居並らぶ道後温泉センターへ新入生として出席させていただきましたが、一番若い組であり、自分もまだまだ若いと思つて張切っています。

ところで山崎先輩から小唄について何か書くようにと申されたので、思いつくままに責を果したいと存じます。

「下手の横好き」という言葉があります、私がその横好き組で、若い時から芸能関係が好きで、端唄、伊予万才、謡曲、小唄、また俳句、書道と色々やってみましたが、ものになったものは一つもありません。「二頭を追うものは一頭を得ず」で、数頭を追ったためか、何も得ずとあったところまことにお恥しい次第であります、それでも下手ながら現在謡曲と小唄だけは何とか続けています。謡曲は満十一年で一〇冊習ったが、これについては本題でないので次の機会にいたします。

小唄は昭和三十六年二月から現在までに七十七曲ほど習ってはいませんが、横ずきの組ですからお察しの程を願います。

小唄の習い始めは大体「お伊勢まいり」からで、短かいものが多いようでありましたが、小唄といっても短かい唄という意味ではなく、小節で無造作に口ずさむ唄と考える方が正しいとされているようです。長いものは「両国の夕すずみ」「上げ汐」「忠臣蔵十二段がえし」など随分長いものもあり千曲にもおよんでいます。また流派も六、七十派もあるといわれています。そうなるの小唄と端唄は、どう違うのかといいたくなると思っています。

小唄は三味線をあしらいに使って唄い、端唄は三味線にのせて唄う、小唄は唄い込まれた文句の情味溢る面白さを味わい、端唄は節廻しと声づかいのよさに耳を傾ける、だから端唄の三味線は撥をあてる方がよく、小唄は大体爪びきがよいとされています。小唄は前に述べた如く、小節を無造作に口ずさむといっ

たもので、聞いてもらう、聞かせるというより、何となく口からほとぼり出で唄になったという程度のものです、これに後から三味線をあしらいに使ったものと考えられます。そのような関係で小唄の歴史は遠く藤原時代、源平時代、足利時代から徳川時代へと伝わり、その間盛衰はあったが現在におよび、最近は何種々新曲も出ております。小唄の文句は情緒的で、あだっばいものが多いが、また味わいも多々あります。節についても、小唄の中へ、大津絵、浄瑠璃、清元、民謡、歌沢、馬子唄などがはいり、中にはセリフのはいったものもあり、色々変化に富んでいるものが多いのであります。

どうも小唄の解説みたいになつてしまいましたが、私は小唄と謡曲だけは若返りと健康のため、できるかぎり続けて行きたいと念願しています。

われわれのグループは、前号掲載された行天先輩の後を継承したものであり、現在十名おりますが（電通関係）私達の田村

派は道後検査や市内の有志で六十余名の会員であります。

意気な文句の小唄を口ずさみ稽古するときは、老も忘れて、はつらつたる気分になり、唄う様な文句に若かりし頃に戻ったような気になり、一ときでも雑事を忘れた楽しい時間を作ることにつとめ、また小唄を習っていることによって若い人達と接する機会も多く、若返りと健康の一方法と思つて稽古に励んでいる次第であります。

電友会の先輩諸兄も俳句、和歌、囲碁、将棋と種々の趣味を持たれ、健康についても一段と配意されていることと存じますが、どうか健康で楽しい毎日を送られまして、次会も元氣なお顔を見せて頂けますようお願い申し上げます。

折角の機会ですから小唄二題といいたすので、目出たいところ「梅と松」「白扇」の二題を書添えまして、私の責を終らせて頂きたいと存じます。

梅と松とや、若竹の、手に手引かれて、しめかぎりならば、うそじゃ、ないぞえ、ほんだわ

ら、えびのこしとや、千代までも共白髪、よいよい世の中、よいところへゆずりはの、てもまあ、明けましては目出たい、春ちゃえエー

白扇の、末広がりの、末かけて、かたきちぎりの、銀かなめ、かがやくかげに、松が技の、葉色もまさる、深みどり、立寄る庭の池澄みて、波風立たぬ、水の面、うらやましいでは、ないかいな

囲碁と私

山内 旬一

私は十一月から山越囲碁道場の主人として、毎日十局前後碁を囲み、全く碁に明け暮れています。これは私の元来の志ではなかったのです。何か仕事について、碁は夜の遊びにしたいとおもっていたのです。

それが最近の碁ブームで城北に碁のクラブがないのが地域的に淋しいことと認められるし、社会的意義も仕事に比べて決して劣るものでないとおもえるようになって考えが一変しました。「碁では食えぬ」これは小さ

うなることやら、どうしたらよいものやらと青息吐息の状態。頭の中があれやこれや走馬灯さながらに動き廻って、どうにも「俄か百姓」にピンとが定まりそうになかった。

いよいよ退職辞令をうやうやしく

導びかれ めでたく

停年 むかえ得て

ただ有難し 皆様の愛、

高令者 去りて

職場の 春若し

の感激とともに、いただいた後引越しやら入院やらして、そうこうしているうちに、雲行が次第に険悪になり危急を告げるようになって来た。じれったい私の態度に業をにやして、結婚を目前に待機中の、妻の腹心（内職および家政双方に亘る）？の娘が、「おとうさん、玉ねぎの苗が叔父さんを通じて手に入っただから、店の事務員さんにも手伝って貰い百本ばかり植えて来たから、あとはよろしく頼みます」という次第。しかし男一匹体が重くなかなか動じない。

その後、娘から二、三度に亘り「うまく根付いたかどうか見て来てほしい。草も取って貰いたい」とのご注文。なにしろ相手が悪い。そして可愛いようでありまた憎らしい。娘は自動車ですら運転し自由に走り廻る身分であり、こちらはなんぼ好きかは知らないがテクるあるのみ。バスを利用していたのでは、健康増進上の理由から自分にふさわしくない。

四度目ぐらいの督促に堪えかねてついに神輿を上げ、あやしげな足取りでそとのぞきに行った。全く驚いた。ただ嘔然とした。やっていることがテンでなっちゃいない。田んぼの固まった土に移植こても使ったのだらう、ほんの小さな穴をあけそと根が埋めてある。誰が見ても植えてある感じが出ないだらう。玉ねぎの根は固い土のかたまりとかたまりとの間に、寒さにふるえながら、どうしたものだらうかと思案投げ首である。ドライなやり方であり、あまりにも拙速主義である。愛想がつきるといった程度を超えて、玉ねぎが可愛そうになった。無情な仕振りである。叔父が忙しいところを買って来てくれた配意に対して、なんとそれに対応する配慮の欠けていることか。こんなところが年寄？と若い者との考えのズレといっているのか。感慨けだし無量！しかし娘の仕方いいところもあるのですよ。それは割愛。

こうした端緒で「牛に引かれて善光寺詣り」の格好よろしく初まった。私の「俄か百姓」がどう発展して行き、また進んだかは、次回のお楽しみ？にして今回はあまり長くなるので、この辺で。（時に午前五時）

故菅川氏を悼む

山崎 義巳

菅川さん

たしか終戦の年に、私等の係当時松山通信局業務部電務課計画係へ、当時の多度津郵便局から転勤して来られたのでしたね。その当時は進駐軍関係の仕事では随分泣かされたものです。通信局も経専（今の松山商大）から丸善のバラックへ、二番町の保険分室倉庫へ、それから今の通信局の旧庁舎へと、一年位で転居していったものでしたね。そうそう電務課が電信電波課と電話課に分れたときに電話課へ配属せられて、仕事の上ではお別れしたものでしたね。

二省分離の機構改正では松山管理所の監査運用課長として、又私（当時松山電報局業務長）と仕事の上で何かとご指導をお願いしていたものでしたね。

暫らくして松山電話局の運用長に栄転されたことを覚えています。

今私は二十数年前を思い出して仕事の面から追憶をたどっていたのですが、私的生活の面でも何かとご懇意に願ったものでしたね。たしか二十一年の年末だったか、餅米のお世話して頂いたと思います。本当に助かりました。

その後職を退かれて南町の方で養鶏をなさって居られるというのを聞いたのですが、私も二、三度転任いたしましたので、ついついご無沙汰いたしておりました。

三十八年の初夏の頃でしたか、

道後公園の前の電車道でお会いして歩きながら何としてでも、元気にこれから生き抜こうと話しかけたものですね。

生者必滅、会者定離と申しましたが悲しい言葉です。

旧知の方々が段々減って行くことは淋しい極みです。返えすがえすも哀悼の念に堪えませんが家庭では自己の半身を失われた奥さんのお嘆きは如何ばかりかと思ひますとお慰めする言葉もございません。

霊界に転住された普川さん私は霊魂の不滅を信じています。どうかご家庭の奥さんお嬢さんの身の上に現世以上のご加護あらんことをお願いすると共に転住された浄土のご日常がこよなく安らけきを信じ合掌させて頂きます。頓首礼拝

森 長重郎さんの

死を悼む

丹生谷 保

昭和四十一年十二月十五日、松山市民病院の一室で、奥様は

じめ近親の人々に見守られながら遂に森さんは黄泉に旅立たれた。

大正十年、広島通講卒同期生の一人がまた消え去ってしまった。

六十の坂を越した吾々年代の者にとつて、同年輩の親しい友の死ほど、身につまされ、淋しい気持ちを抱かせることはない。

新年のテレビでもラヂオでも六十の坂を越した人の話のなかには、きまったように、死に對する心がまえ、といったようなことがでてくる。『死の影が、すでに、静かに、身辺に訪れてゐることを感知することがあるためだろうと思われる。』

仏教では「生を諦め、死を諦めることは仏家一大事の因縁なり」と教えている。私は森さんの死を因縁として、これからの私の生き方を真剣に考えたいと思う。

今、私は、あの重厚で、柔和で、人なつっこい、森さんの温顔を浮べつつ、多年に亘るご厚情を辱けなく思うとともに、も早ふたたびお会いすることので

きない、千萬億土の彼方の森さんのみ霊に、ただ、厚く厚くお礼を申し上げるばかりであります。

合掌

付記 森さんは昭和三十五年、福祉課長として共済会に採用され、同三十七年末、雇用期間満了で退職、引続き嘱託に採用され同四十一年三月末日付で退職された。元気で退職されたのに間もなく病を得、松山市民病院に入院。八月頃にはご快方のように見受けられたが、その後又病状進まれ遂にご回復に至らなかった。まことに残念である。亡くなられる前日、病篤しの報に私達がかけつけた時は、意識不明であった。奥様のお話しでは意識不明に落入るまえ、奥様はじめ近親者、友人達みんなに、ていねいに、感謝の言葉と別れのあいさつをせられたそうである。私はこのことをお聞きしながら、そつと目がしらをぬぐうのであった。

編集後記

発行の遅れましたことを重ねてお詫び申し上げます。

建国の日も昔の紀元節の日と同じ日に定められ「雲にそびゆる高千穂の」と歌った昔に返ったような気持ちがいいたします。二月十一日という日の定め方については異論もあることでしようが、ともかく国の誕生日が決まったのですから喜んでよいのではないのでしょうか！

南国の伊予に住み、風邪を病む私が若し山陰なり北陸に移り住まなければならぬことになったらどうするのだろうか！

そんなことはその時のことと「ヨガ」の呼吸法（腹式呼吸の一種）を常時行なうよう努力しております。そして寝る前と朝起きる前に布団の中で合蹠（足を合せる）して前記の「ヨガ」呼吸を入念に行ないます。これによって身心を訓練して行きたものです。梅が綻び初めました。水仙がブロッツクの垣根に白く咲き出てきました。やがて桃が咲き、桜も開くことでしょう。花の春を嬉しく楽しく迎えたいものです。（山崎）